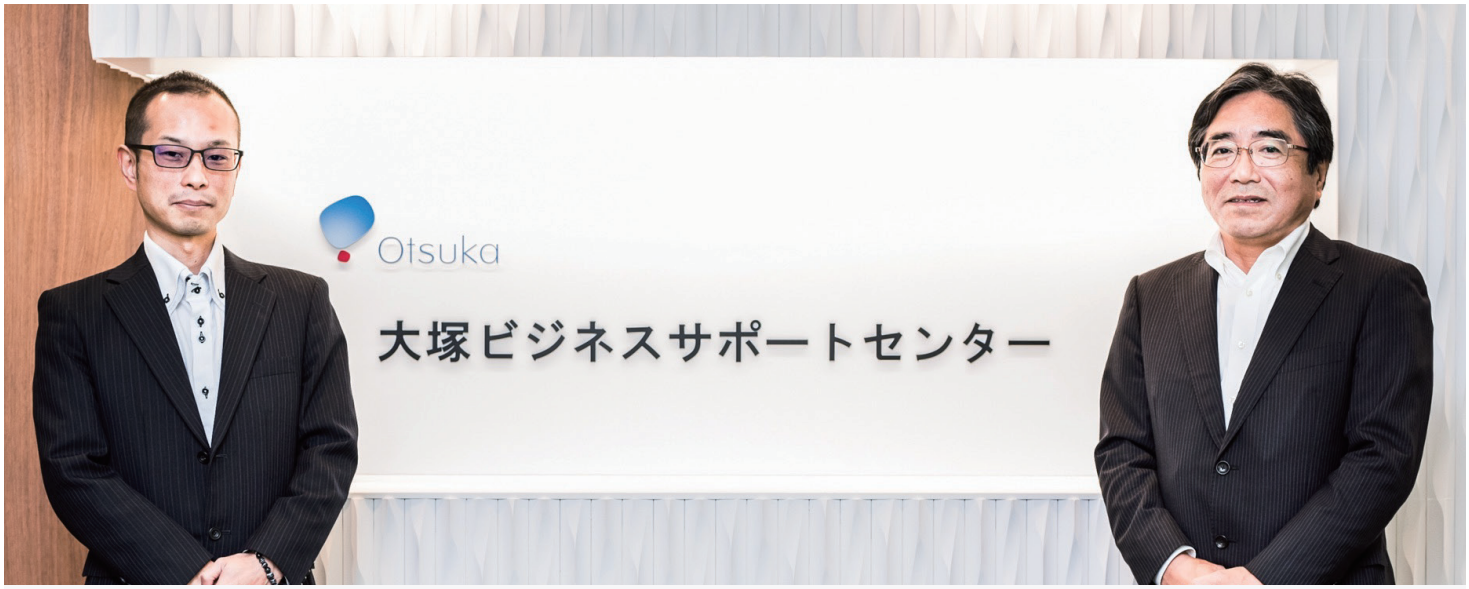


（左から）安藤 圭一 氏、今村 司朗 氏

Otsuka
大塚ホールディングス

大塚グループのシェアードサービスセンターとして、グループ全体でのRPA活用を推進

CORPORATE PROFILE

社　名
大塚ホールディングス株式会社

事業内容
大塚製薬をはじめとする
「大塚グループ」の持株会社

ウェブサイト
https://www.otsuka.com/jp/

- 話を伺った方 -
ITグループ　課長　今村 司朗 氏
同グループ　安藤 圭一 氏

Highlight

☑ **現場に喜んでもらうことを目指して、導入1年目で数千時間の業務削減効果を実現**

☑ **グループ導入ならではのシナジー効果に期待**

大塚製薬株式会社をはじめ株式会社大塚製薬工場、大鵬薬品工業株式会社などの事業会社で構成する「大塚グループ」の持株会社である大塚ホールディングス。そんな大塚グループでは、“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”という企業理念のもと、グローバルなトータルヘルスケア企業として「大塚だからできること」や「大塚にしかできないこと」を追求し「既存概念にとらわれない取り組み」を実践している。そして2018年より大塚ホールディングスが業務の効率化を目指しBizRobo!の導入を進めており、業務時間の短縮をはじめその効果が表れ始めている。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

導入背景

グループ企業のシェアードサービスセンターとしてRPAに着目

2017年秋頃よりBizRobo!を試行導入

大塚グループ発祥の地である徳島県内に2009年に開設された、大塚ホールディングス内にある大塚ビジネスサポートセンター（以下、OBSC）には、シェアードサービスセンターとしてITグループ、経理グループ、人事部サポートセンターがあり、グループ共通の業務を支援している。PCや各種サーバ、ネットワークの管理、ヘルプデスクサービスなど、主にグループ企業のIT運用管理を担うITサポートセンターでは、業務の効率化・自動化に寄与するテクノロジーとしてRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）に着目。グループ企業合同で2017年秋頃よりBizRobo!を試行導入することとなった。



（左から）今村 司朗 氏、安藤 圭一 氏

BizRobo!を選んだ理由

BizRobo!選定のカギは国内実績と内部統制のとりやすさ

サーバ型であることは必須事項だった

RPA導入時、当初からBizRobo!を採用した理由について、今村氏は次のように話す。「まず大きかったのが、既に日本で一番使われていて圧倒的なシェアを誇るRPA製品だった点です。その分、実績もあるため参考になるユースケースも豊富であることなどから、国内でRPAを導入するのであればこれしかないと考えました」

そしてもう1つBizRobo!選定の決め手となったのが、サーバ型RPAというBizRobo!の特徴であった。

「内部統制を確保した体制でRPAを運用することをはじめから念頭に置いていた当社にとって、野良ロボットが発生しやすいデスクトップ型のRPAは適してないと判断していました。我々ITグループが主導するプロジェクトであり、グループ全体までを一括して運用管理が行えるようにするにはサーバ型であることは必須事項だったのです」（今村氏）



Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

対象業務

ロボットへの理解が深まるにつれて現場から提案が増えていく

最初は現場からRPAに仕事が取られるのではとの声もあった

BizRobo!でロボット化する業務は基本的に、それぞれのグループ会社の現場の提案を吸い上げ、企業ごとに開発を進めてもらうようにしている。そして最終的に本番環境へと移行する前にOBSCに申請を提出してもらい、以後の管理はOBSC側で行うという仕組みをとっている。各ロボットの稼働時間などは、OBSCがそれぞれの負荷なども考慮して調整するという体制だ。

今村氏は言う。「最初のうちは現場から、自分たちの仕事がRPAに取られるのではといった声もあがりました。しかしそこは実際にロボットが実業務で稼働するのを目にするうちに、ロボットとはなんでもできるわけではなく、人と協働するものなのだと理解してもらえるようになり、むしろ“これもロボット化できるのでは”と積極的に提案されるようになりました」



導入効果

既に年間数千時間の業務削減効果を実現

現在では約70体のロボットが各グループ企業で稼働

2018年2月に最初のロボットが本番環境で稼働して以来、現場のニーズなどに応じて着々とロボットを増やし続けてきた。その結果、現在では約70体のロボットが各グループ企業で稼働している。そしてこれらのロボットによる年間の業務削減効果は約数千時間である。

「そもそも劇的な業務時間の削減効果が見込める業務であればシステム化すればいいと考えたため、むしろ日々の業務の中にあり少しずつ効率化できるような作業をRPA化しました。こうして編み出された時間は他のことへと振り向けられるようになっていることでしょう。今では現場からのロボット化要望に開発が追いつかない状態となっています」と今村氏は笑顔で話す。

グループ企業では、働き方改革プロジェクトの一貫として、各部門で業務棚卸をおこない業務改革実現の１つのツールとしてRPAを活用推進しているという。



Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

今後について

グループ導入ならではのシナジー効果に期待

各グループ会社でのRPA化による成果は、会議などを通じて共有される

既に各グループ企業でRPA活用が進むなか、今後はOBSC内での業務のロボット化（＝自動化）を進めていく構えだ。

安藤氏は言う。「シェアードサービスセンター内には200人ほどの社員がITだけでなく経理や人事にかかわる各グループで共通する大量の業務を中心にサポートしていますので、彼らの作業を少しずつでも自動化できれば、その効果はグループ全体に波及しやすいと期待しています」



また今村氏もこう続ける。「各グループ会社でのRPA化による成果は、会議などを通じてグループ全体で共有していますので、今後はグループによるRPA導入ならではのノウハウを活かしながらその効果を最大限に発揮できるようにしていきたいですね」

現場の声

現場からの喜びの声がモチベーションに



『自分が間違えてはいけない』というプレッシャーから解放

各グループ企業の現場からは、BizRobo!で業務を効率化できたことに対する評価が高まっているという。

今村氏は次のように総括する。「とりわけ、実は常々気になっていた日々の15分、30分ほどの業務をRPAが代行するようになると、喜んでもらいやすいと感じています。それと、『自分が間違えてはいけない』とプレッシャーに感じていたような作業も、ロボットであればミスはしませんので、RPA化することによる心理面での負担減も大きいようです。こうして現場に喜んでもらえることは、我々はもちろん、各グループ会社のRPA担当者にとってもモチベーションとなっていますね」

OPEN
オープン株式会社は日本国内で長年にわたりRPA事業を展開し、業界・地域を問わずその活用ノウハウを提供しています。「ヒトの進化を共創する」ことをミッションに掲げ、BizRobo!をはじめとするRPA関連製品・サービスの提供により、個性が思う存分活かされ、楽しむ人たちが躍動する未来の実現に向かっていきます。
オープン株式会社　〒105-0003 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル3F　BizRobo!事務局：Tel 03-6778-0864
もっと情報を知りたい方は
BizRobo! 検索
https://rpa-technologies.com
お問い合わせ:
※記載している内容は取材日時点の情報です。
Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.